本社主催 第一回 全國優勝 野球大會（最終日）

優勝試合　京都二中對秋田中學

八回の表に秋田の渡邊二塁打して出で敵の失により三塁に走り込む

第十三回の表淨田の二塁直球に乘じて京極の大塲左深く飛越の一點を得

▲最優勝戰 ＝京都二中對秋田中學＝

秋田は去る二十日の試合に於て強敵阜稜田實業を擊破せし以來二日間の休養を得て十二分の英氣を養ひ京都二中は前後二日に亙る和歌山中學との激戰に稍疲勞せる氣味あるも外なら ぬ最終勝敗の事とて決死の勇を奮つて起ち 端緒の相手に迎へられつゝ、午後二時四十分、秋田の先攻を以て開始す

■第一回　秋田先頭の打者渡邊手ゴロに死し長崎赤一塁にゴロを呈して斃れ鈴木三振を喫して得る處無し▲京二中の仲遊塁にゴロを送りて一塁に斃れ山田は一塁に飛球を揚げて凡死し藤田三振して止む（秋田零‖京二中零）

■第二回　秋田の小山四三振、信太はフアウルを三塁に費られて退き汁は二塁ゴロに斃れて守備に就く▲京二中の大塲投手跳球に凡死せし後綾木三塁ゴロの失に生き投手の飛制球を一塁手の逸せし隙に二塁を掠し て刺殺され津田三振して 最初の好機を逸す（秋田零‖京二中零）

■第三回　秋田の羽石二塁ゴロに死し高橋投手ゴロに斃れて二死となりし後齋藤二塁にゴロを呈し二塁手後逸せしも右翼逸早く前進し 巧みに捉へて一塁に刺殺し去る▲京二中の四川三振し内藤は遊撃ゴロに斃れ野上三振し て依然無得點に終る（秋田零‖京二中零）

■第四回　秋田の打順大に良く多大の期待を以て攻撃に立ちしが果して第一打者渡邊の三塁ゴロに凡死せし後長崎右翼に流打して出で 閊も無く盜塁に成功して二塁に繰り鈴木は三振せしも小山田亦四球を利して一塁を得しが 京一の投手藤田少しも騒がず後続の打者信太を投手ゴロに殺して危地を脱ず▲京二中赤打順元に廻りて大に良く先頭の打者仲遊塁の後方に安打して出で山田の機性球に送られて二塁を得藤田又も敵後に安打して二塁を衝かず死にして走者一三塁に據る絶好のチャンスに際會せしが第三打者大塲と仲との計畫せしヒットエンドランのサイン徹底せざりし爲め仲本壘に憤死し次で大塲三振に斃されて再び好機を逸す（秋田零‖京二中零）

■第五回　秋田の丹は二塁に羽石は遊撃に飛球を揚げて凡死し高橋も亦投手ゴロに斃れて尚一點も入る、能はず▲京二中の好機三たび到り綾木三塁ゴロの失に生き津田三振し四川フアウルに死して怨ち二死となりしも内藤は遊塁となり而も後續打者は京軍の最先鋒を承認しく も敵右翼手の深き處となりて遂に點を成す能はず原軍依然として零對零の形勢を持し緊張の度漸く加はり來る（秋田零‖京二中零）

■第六回　秋田の打撃頗る振はず前五回の戰ひを通じて未だ一本の安打を飛ばせしもの無く又二人の三塁を踏み得しもの無き有樣なるより愼激して攻撃に立ちしが野球、渡邊、長崎の三者忽く投手に貧弱なるゴロを呈して一塁に骨を埋む▲京二中又振はず山田三振に退き 藤田は遊撃に大振はを振つて飛球を揚げて第七回戰に移る（秋田零‖京二中零）

■第七回　秋田のラツキーセアンは來れり、先頭の鈴木、小山田三振に斃られし後信太の投手ゴロを京軍の投手藤田が一塁に惡捉せしめ 爲め一塁二塁に據り、後續の丹二塁後にタイムリーヒットを飛ばして 信太生還 意氣頓に昂る、羽石二塁ゴロに斃れて止む▲京二中赤綾木三塁ゴロに死し津田遊撃飛球に死して二死となりし後四川右翼に安打し內藤又三塁遊撃間を抜く安打に出で二塁と一塁に據りしも野上三塁にゴロを呈し四川をフオースアウトして又もや好機を逸す（秋田一點‖京二中零）

貴重なる一點を得

■第八回　秋田の高橋投手ゴロに死し藤三塁打して出で投手來制球の逸球を得て二塁に至りしが長崎投手ゴロに死して止む▲京二中の仲四球に出で、山田のバンドを秋田の投手長崎が取つて一塁に高投するに及び無死にして走者三塁と二塁に據り次いで投手の悪球を捕手後逸せしめ 仲生還忽ちセームとなりしより觀衆總立ちとなりて狂呼せしが山田又もヒットエンドランの間隙より三塁と本壘との間に挟殺され藤田三振して尚敵を援ぐ能はず、試合は極度の緊張を持して愈よ最後の九回戰に入る（秋田零‖京二中一點）

■第九回　秋田の鈴木は中堅に飛球を捲られて死し小山田と信太は投手ゴロに死して京二中代る▲京二中赤綾木は中堅飛球に斃れ津田は投手ゴロに死し二死となりし後四川四球を利せしも內藤投手ゴロに死して尚一對一の均衡を破る能はず藤田試合に移る、大會開始以來初めての延長戰となり（秋田零‖京二中零）

■第十回　秋田の丹と高橋は二塁ゴロに死し羽石は投手ゴロに斃れて止み▲京二中の打順大に良く必勝を期して攻撃に立ちしが野上三塁に居られ仲二塁飛球に死し山田は遊撃後に安打して出でしも二塁に盜逸して 刺され尚勝敗の決を見るに至らず（秋田零‖京二中零）

中二都京

學中田秋									
打數	安打	二塁打	三塁打	本塁打	四球	犠牲打	盜塁	盜塁失敗	得點
四十三	十一	一	一	一	四	一	一	一	二

（藤田）

打數	安打	二塁打	三塁打	本塁打	四球	犠牲打	盜塁	盜塁失敗	得點
四十七	十四	三	一	零	四	二	二	一	七

（長崎）

學中田秋									
澁崎	木田	石橋	藤田	山					
渡邊	給小信丹	羽高齋							
2	1	5	6	3	7	8	9	4	
二塁打	渡邊								

中二都京									
田	田	瀨	本	川	藤	上			
仲	山	藤	大	澁	西	內	野		
8	2	1	5	6	4	3	9	7	
二塁打	三塁打	犠牲球	四球	長崎					
仲	山								

打數	安打	得點	二塁打	三塁打	本塁打	四球	死球	犠牲打	盜塁	盜塁失敗	殘塁	失策
三十四	十	七	一	一	零	五	一	二	二	一	九	二

打數	安打	得點	二塁打	三塁打	本塁打	四球	死球	犠牲打	盜塁	盜塁失敗	殘塁	失策
三十四	七	二	一	零	零	四	一	一	一	一	七	一

概評

秋田の打撃は振はず前五回の戰ひを通じて未だ一本の安打を飛ばせしもの無く又二人の三塁を踏み得しもの無き有樣なるより愼激して攻撃に立ちしが野球、渡邊、長崎の三者忽く投手に貧弱なるゴロを呈して一塁に骨を埋む▲京二中又振はず山田三振に退き 藤田は遊撃に大振はを振つて飛球を揚げて第七回戰に移る（秋田零‖京二中零）

■第七回　秋田のラツキーセアンは來れり、先頭の鈴木、小山田三振に斃られし後信太の投手ゴロを京軍の投手藤田が一塁に惡捉せしめ 爲め一塁二塁に據り、後續の丹二塁後にタイムリーヒットを飛ばして 信太生還 意氣頓に昂る、羽石二塁ゴロに斃れて止む▲京二中赤綾木三塁ゴロに死し津田遊撃飛球に死して二死となりし後四川右翼に安打し內藤又三塁遊撃間を抜く安打に出で二塁と一塁に據りしも野上三塁にゴロを呈し四川をフオースアウトして又もや好機を逸す（秋田一點‖京二中零）

■第八回　秋田の高橋投手ゴロに死し藤三塁打して出で投手來制球の逸球を得て二塁に至りしが長崎投手ゴロに死して止む▲京二中の仲四球に出で、山田のバンドを秋田の投手長崎が取つて一塁に高投するに及び無死にして走者三塁と二塁に據り次いで投手の悪球を捕手後逸せしめ 仲生還忽ちセームとなりしより觀衆總立ちとなりて狂呼せしが山田又もヒットエンドランの間隙より三塁と本壘との間に挟殺され藤田三振して尚敵を援ぐ能はず、試合は極度の緊張を持して愈よ最後の九回戰に入る（秋田零‖京二中一點）

■第九回　秋田の鈴木は中堅に飛球を捲られて死し小山田と信太は投手ゴロに死して京二中代る▲京二中赤綾木は中堅飛球に斃れ津田は投手ゴロに死し二死となりし後四川四球を利せしも內藤投手ゴロに死して尚一對一の均衡を破る能はず藤田試合に移る、大會開始以來初めての延長戰となり（秋田零‖京二中零）

■第十回　秋田の丹と高橋は二塁ゴロに死し羽石は投手ゴロに斃れて止み▲京二中の打順大に良く必勝を期して攻撃に立ちしが野上三塁に居られ仲二塁飛球に死し山田は遊撃後に安打して出でしも二塁に盜逸して 刺され尚勝敗の決を見るに至らず（秋田零‖京二中零）

戰勝後社我を訪問するや京都二中主將 (我社機上にて)

海軍八四計畫の由來（中）

▲補充案の性質

■第十一回　秋田の富森三振し渡邊の好打遊撃の頭上を越すと見事なるヒットと思はれし刹那京軍の左翼手內藤蚌かなるフライプレーを演じて好捕し長崎三振して得る處無し▲京二中先頭の打者藤田中堅に安打して出で大塲三振、綾木三塁ゴロに生きて藤田を三塁に送り津田投手にゴロを呈して藤田を三塁にフオースアウトせしめ二死となりしも西川四球を利して再び滿塁となりしが豈圖ん西川の猛打せし飛球を秋田の左翼手丹好捕して好機又もや去る（秋田零‖京二中零）

■第十二回　秋田の鈴木二塁ゴロに死し小山田は一塁飛球に死し信太三振して尚ランを作る能はず▲京二中野上三塁直球に死し仲は中堅に飛球を挙げて忽ち二死となり山田遊撃ゴロの失に生きて二塁を盜みしも藤田投手ゴロに斃れて得點無し（秋田零‖京二中零）

■第十三回　秋田芳頭の丹左翼に安打して出でしが羽石又左翼に飛球を呈して斃れ均は二塁の盜塁を企て、成らず高橋三振して守備に就く▲京二中赤先頭の打者大塲中堅に飛球を呈して野手の失に生きて二塁を盜み後續の綾木は フアウルに死せしも津田の二塁直球を秋田のフンブルせし隙に大 三回に至るまでエキストラインニングを行ひて猶ニ人對一の優勢を見るに至りしは流石に全國を代表する大會の最優等にも恥ぢず勝ちたる二中は勿論敗れたる秋田も亦其ノ戰 後援會、倘武會、青年會、教育者、師團軍醫部、聯隊區司令官等より送れる祝勝の電を頒ちて協議會に於ける會議に於ける會議に於ける會議